

7 授業実践を振り返る

☆振り返りの方法

次の授業づくりにつなげるために、授業者として気付いたことや生徒の生の声などの記録を残すことを心掛けましょう。記憶の新しいうちに残した記録は、振り返りの際の大切な資料になります。

また、生徒が取り組んだプリントや振り返りシートの記述状況なども、次の指導に生かしていきましょう。

このような記録や資料の活用に継続して取り組める方法を工夫してみましょう。

さらに、必要に応じてビデオ撮影したり、録音したりして振り返ることも有効です。

1 単位時間の振り返り

単元（題材）全体の計画の有用性を見極めるには、1単位時間ごとの授業や題材のまとめりごとに、その進捗状況、そのときの生徒の反応などを把握しておくことが大切です。その際、早急に軌道修正すべき点があると判断した場合には、可能な範囲で迅速に次時以降の計画を修正する等の調整が必要となるでしょう。

単元（題材）全体の振り返り

授業は、「単元（題材）全体を見通して構想を練る」ことが大切であり、その全体像に基づいて、1単位時間の授業をどのように展開するのか、具体的な内容や方法について計画を立てて実践します。

そして授業の実施後もまた、単元（題材）全体を見渡した振り返りを行うことが重要です。もちろん1単位時間の授業における指導内容を振り返ることも必要ですが、単元（題材）を通して、生徒に力が身に付いたかどうか、計画内容を見直す視点を持ちましょう。

目標の実現につながりましたか？

授業は事前に設定した観点別の評価規準に表れている「生徒に身に付けさせたい力」の育成のために行っています。そこで、その時間の計画にあたって明らかにした目標が実現できたかどうか、生徒に対する評価を通して振り返ります。

また、授業の流れを構想した際に考えた工夫は目標の実現にとって有効だったでしょうか。生徒の学びを深めることにつながったでしょうか。この点についても振り返り、次にかかします。

個別支援が
必要な生徒
への対応を
考えよう

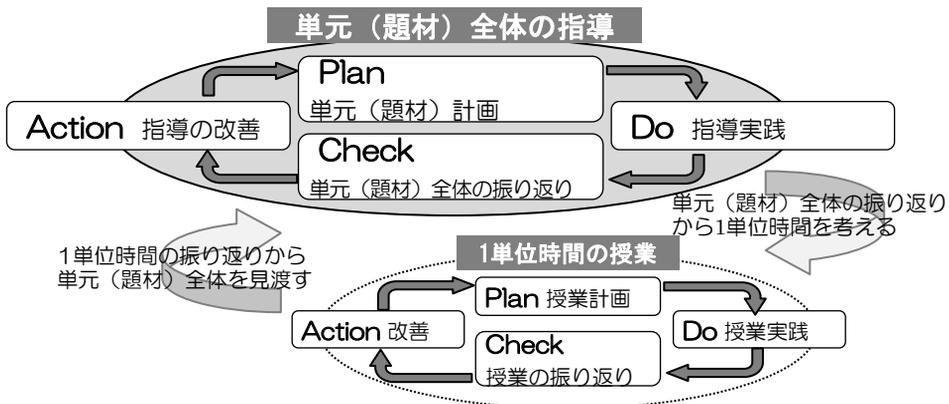
キーワードは達成感

それぞれの授業を振り返る中で、評価（C）の生徒における個別の手立てを考えましょう。キーワードは達成感。短時間でも個別に学習を見たり、ワークシートで書き込み式のものを用意したり、同じプリントをもう一度やってみたりするなど生徒と相談して次の時間に向けてサポートしていくと良いでしょう。

振り返りの視点

目標を立てて授業を行い、授業実践を振り返り、次に生かすという「PDCA」サイクルの「Check」の段階であることを踏まえ、次の「Action」に生かすことを意識して振り返りましょう。

1単位時間の授業の振り返りを積み重ね、単元（題材）全体を見渡した振り返りを行い、計画を見直していくことが重要です。



振り返りのポイント

【生徒に身に付けさせたい力と目標設定について】

- 目標の設定は、生徒の学力・学習状況と合っていますか。
- 目標の実現はできましたか。

【評価規準の設定と評価方法について】

- 評価方法は妥当性・信頼性があるものでしたか。
- 評価（C）の生徒への支援の手立ては適切でしたか。

【学習活動について】

- 主体的な学びを促す活動でしたか。
- 活動の時間は十分でしたか。
- 資質・能力の育成に適した活動でしたか。
- 効果的な発問ができましたか。
- 効果的な教材・教具の活用ができましたか。
- 個々の生徒への配慮をしましたか。
- 学習の展開は適切なものでしたか。

☆授業観察の視点

他の教員の授業から学ぶことは多いものです。授業観察の視点について考えます。

○生徒を見る

- ・生徒の視線
- ・生徒の主体的な活動の様子
- ・生徒のつぶやき、行動
- ・生徒のワークシートへの記入状況
- ・生徒のグループ学習での発言内容
- ・生徒のICT機器の使用状況

○授業者を見る

- ・生徒との関わり方
- ・生徒の活動状況の把握
- ・授業者の発話、振る舞い
- ・板書の仕方
- ・授業者のICT機器の使用場面と活用状況

○授業展開を見る

- ・授業の流れ（時間配分）
- ・目標と学習活動の関連
- ・目標の実現状況

○学習環境を見る

- ・掲示物の工夫
- ・学習に集中させる工夫
- ・教材・教具の工夫

R-PDCAサイクル①

校内授業研究などは、「PDCAサイクル」に、事前の実態把握「R: Research（調査）」を加えた「R-PDCAサイクル」に沿って推進することが求められます。校内授業研究では、「学習状況調査」、「生徒による授業評価」などを活用して学校の実態と課題を把握し（Research）、その課題の解決に向けて研究計画を立て（Plan）、組織による授業づくりを行い（Do）、実践した授業や研究活動を評価し（Check）、その評価結果を分析して次の授業づくりへつなげたり、次年度へ向けた研究活動の改善を行ったりして（Action）、更なる課題の把握（Research）に発展させます。（4章－8に続く）